

プレック研究所 正会員 大原学武
 埼玉大学 正会員 窪田陽一

1、まえがき

近年、日本の都市には様々なタイプの公共的な広場空間がつくられてきた。その多くは人々に好まれ都市における快適な空間づくりに役立っているが、一方で空間の設計が適切でないために利用されなかったり、設計者の意図とは異なる行動が起こっている広場も見られる。これは意図を実現させる設計技法に関する認識が十分でないためと思われる。

本研究では、こうした広場空間の設計段階での失敗をできるだけ回避するために、利用形態と関連の見られる空間構成を提示して、今後の広場空間の設計技法の参考となることを目的とした。

2、広場空間の空間構成

はじめに、予備調査として首都圏21ヶ所の広場空間を訪れ、その空間構成と利用形態について調査を行った。この調査データをもとに広場空間の空間構成を以下のように類型化して、11の空間構成要素を抽出した。(表-1、図-1)

なお、この要素の抽出はK. リンチが都市のイメージとして用いた5つのエレメントを起点とし、設計意図(コンセプト)の反映された空間構成を抽出することで利用実態の整合性を見ることを目的とした。

次に示した図-2は、抽出した11の空間構成要素が実際に広場空間の中でどのように配されているかを記したものである。

3、広場空間の利用形態

広場空間の利用形態に関するデータを収集するために以下の活動調査をおこなった。

<調査対象広場>

- ・天王州アイル ・東京住友ツインビルディング
- ・東京イースト21 ・恵比寿ガーデンプレイス
- ・都民広場 ・池袋西口公園 ・大宮ソニックシティ

<調査日時>

- ・1996年8.9月、12月、各広場に関し1～2日(平日および休日)を選択し調査を実施。

表-1：広場空間の空間構成要素

パス	溜まりのない 溜まりのある	1.「直進的な通路」 2.「散策できる通路」
エッジ	緑と向き合う 緑を背負う	3.「ひろがる視界」 (視界が閉ざされている) 4.「空間の縁」 5.「腰高の段差」
ディストリクト	視覚的に閉ざされている 視覚的に開かれている	6.「閉鎖的な領域」 7.「開放的な領域」
ランドマーク	目標物となる	8.「遠方から目立つ目標物」
ノード	座具 座具以外	9.「外向的な配置の座具」 10.「内向的な配置の座具」 11.「象徴的な活動拠点」

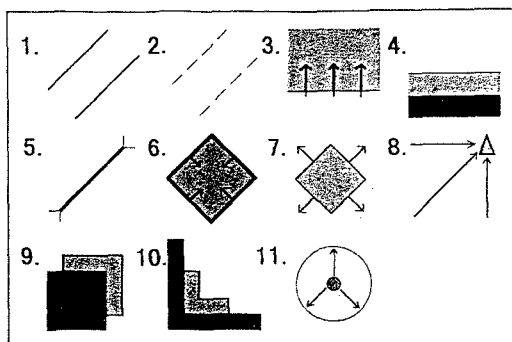


図-1：広場空間の空間構成要素

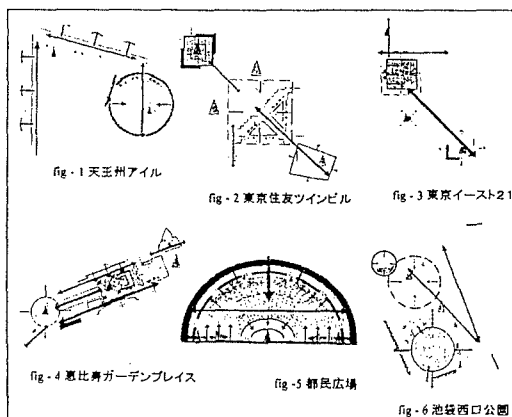


図-2：ケーススタディ

広場空間、空間構成、利用形態

※1 〒151 渋谷区元代々木町30-13 TEL 03-5453-8408 FAX 03-5453-8421
 ※2 〒338 浦和市下大久保255 TEL 048-858-3551 FAX 048-855-9361

<調査方法>

- ・ AM11:00～PM5:00 にかけて、広場内で見られた活動を、写真または図面上にマッピングすることにより記録した。

<調査項目>

- ・ 活動単位（1人・2、3人・グループ）
- ・ 活動時の体勢（立位・座位）
- ・ 活動の種類
 - (a. 通り抜ける b. 散歩する
 - c. 遊ぶ(運動する) d. 見る
 - e. 集まる f. 待ち合わせる
 - g. 寄りかかる h. 眺める(マンウォッチング)
 - i. 会話する j. 読む
 - k. 食べる l. 眠る)

4. 相関分析

<相関分析の方法>

- I：活動調査により観察された7広場115の活動サンプルすべてについて空間構成要素と関連づける。
- II：空間構成要素別に発生頻度の高い活動をピックアップする。
- III：相関の見られる空間構成と利用形態の組み合わせについて、調査時の写真や図面、データシートなどを用いて、相関の妥当性について考察する。

相関分析の結果、広場空間の空間構成と利用形態の組み合わせのうち34通り(表-3)に活動の発生頻度50%以上の相関が見ることができた。特にその内の21通りに関しては80%以上の高い相関が得られた。

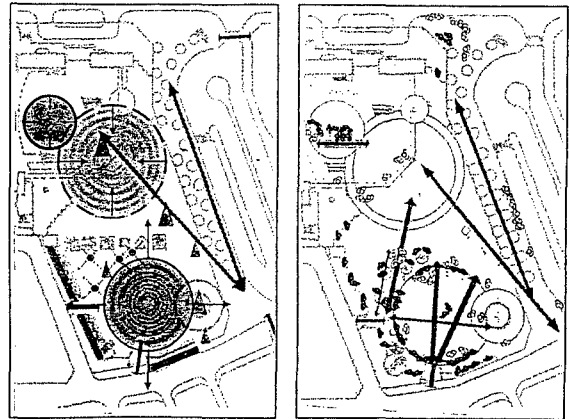
5. おわりに

本研究では広場の空間構成と利用形態との間に以上のような相関を見ることができた。

これらは広場空間の設計技法の確立への初歩段階の研究成果である。今後さらに、「各々の構成要素の規模・寸法」「構成要素間相互の関連」「人間どうしが及ぼしあう影響」などが、利用形態に与える影響に関して研究を進め、設計者の意図を実現させる設計技法が確立されていくことが望まれる。

参考文献

- 1) クリストファー・アレグザンダー他、バタン・ランゲージ、鹿島出版会、1984
- 2) K. Lynch、丹下健三、富田玲子訳、都市のイメージ、岩波書籍、1960



活動調査で得られた利用形態に関するデータ(図-4)と広場の空間構成要素分布(図-3)

図-3(左上): ex: <池袋西口公園>

図-4(右上): ex: <池袋西口公園>

表-2: 空間構成と利用形態の相関分析

空間構成と利用形態の相関分析														
<方法>														
調査により観察されたすべての活動について、空間構成要素別に発生頻度の高い活動をピックアップする。														
No.	空間構成	サンプル	立位	座位	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
1	直線的な通路	6	16	0	6	1	0	4	0	0	0	0	6	0
2	散策できる通路	7	7	0	5	5	2	6	0	0	0	5	5	0
3	ひろがる境界	11	10	2	0	0	0	3	2	3	1	10	10	0
4	空間の縁	13	8	8	0	1	0	4	2	4	5	10	6	4
5	段高の段差	13	3	12	0	0	1	0	5	2	4	11	4	2
6	閉鎖的な領域	9	5	2	1	2	2	2	4	2	1	4	7	2
7	開放的な領域	7	6	2	3	4	2	1	2	0	1	5	7	0
8	遠方から目立つ目標物	9	9	0	8	6	0	6	0	0	1	3	5	0
9	外向的な配置の座具	10	1	10	0	0	0	1	4	3	0	8	9	3
10	内向的な配置の座具	7	2	7	0	0	0	0	4	5	0	6	7	2
11	象徴的な活動拠点	23	20	5	4	0	3	11	16	8	4	14	17	4

表-3: 空間構成と利用形態に見られる相関

1. 直線的な通路 「通り抜ける」「見る」	2. 散策できる通路 「散歩する」「眺める」「通り抜ける」	3. 空間の縁 「座る」「寄りかかる」「食べる」「寄りかかる」「眺める」	4. ひろがる境界 「座る」「眺める」「待ち合わせる」「座る」「眺める」「会話する」「食べる」「読む」
5. 段高の段差 「座る」「眺める」「食べる」	6. 閉鎖的な領域 「立ち止まる」「集まる」「会話する」「座る」「眺める」「待ち合わせる」「座る」「眺める」「会話する」「食べる」「読む」	7. 開放的な領域 「座る」「眺める」「待ち合わせる」「座る」「眺める」「会話する」「食べる」「読む」	8. 遠方から目立つ目標物 「座る」「眺める」「待ち合わせる」「座る」「眺める」「会話する」「食べる」「読む」
9. 象徴的な活動拠点 「立ち止まる」「集まる」「会話する」「座る」「眺める」「待ち合わせる」「座る」「眺める」「会話する」「食べる」「読む」	10. 外向的な配置の座具 「座る」「眺める」「待ち合わせる」「座る」「眺める」「会話する」「食べる」「読む」	11. 内向的な配置の座具 「座る」「眺める」「待ち合わせる」「座る」「眺める」「会話する」「食べる」「読む」	